

2022 年 12 月： 南アルプス塩見岳 山行報告書

■山 域：南アルプス 塩見岳 (3,047m)

■日 程：2022 年 12 月 28 日 ～ 2023 年 1 月 1 日

■参加者：土橋 誠・中山 正浩

■全行程：

28 日(水) 北九州発 17:00 ⇒ 山陽道より名神を経て中央道へ ⇒

29 日(木) 中央道飯田 IC より ⇒ 途中朝食を摂る ⇒ 6 時前に鳥倉林道冬季ゲート着

鳥越林道冬季ゲート発 6:30 → 鳥倉登山口 9:15 → 三伏峠小屋到着 12:50 (幕営)

30 日(金) 2:00 起床・三伏峠小屋発 4:00 → 三伏山 4:10 → 本谷山 5:30 → 塩見小屋着 8:00

(登攀具装着) → アタック開始 8:30 → 塩見岳西峰 9:45 → 塩見岳東峰 9:55 下山開始
10:25 → 塩見小屋 11:30 (装備解除・大休止)

塩見小屋発 12:15 → 本谷山 14:30 → 三伏山 15:30 → 三伏峠小屋着 15:40 幕営)

31 日(土) 4:00 起床・土橋 (テン場発 5:30 → 鳥帽子岳 6:30 → 帰営 8:15 帰営後撤収)

三伏峠発 9:00 → 鳥倉登山口 10:40 → 鳥倉林道ゲート 13:00

下山後、飯田市にて入浴・夕食を摂り、17 時頃飯田を出発帰路につく

1 日(日) 未明 北九州到着

■共同装備：テントカミナドーム 4 人用(スノーフライ)、ザイル 7.8mm×30m 2 本、ガス 4 本

■個人装備：ワカン、アイスパイル、食料 3 泊 4 日分

■ザック重量：土橋 約 22 k g ・中山 約 18 k g

今年も槍ヶ岳(大喰岳西尾根)を目標としていたが、積雪量が多く登頂が見込めないため天候の安定している南アルプスの塩見岳に転進することとなった。

クリスマス前後に大きな寒波がきたが、その後の天候は安定しており入山可能と判断して 28 日の夕方に北九州を出発した。夕方に北九州を出発するやり方は渋滞に巻き込まれる確立が少なく、交代で運転するため疲労も大きくない。



◆12月29日（入山初日） 天候 晴れ

朝6時半に登山届をポストに入れ、~~鳥倉林道~~ ^{20日6時半出発}トを出発。林道から雪がついているが、駐車場に数台の車が駐車しており、トレースが期待できる。

2時間以上林道を歩いて登山口に到着。

登山口の標高はすでに1,700mを越えており、日陰に入るとやたら寒さを感じてしまった。

登山口から三伏峠小屋までは明瞭なトレースがあり、特に難所はない。荷物は重たいが苦勞なく13時前にテン場に到着した。

すでに3張程のテントがあり、塩見岳までのトレースを期待させる。テン場ではワカンを付けてしっかりと整地したおかげで快適なねぐらができた。

私は三伏山まで偵察に出かけ、土橋さんは水作りを行った。風が強いせいか、三伏山からのくぐりはトレースが不明瞭であった。その後、ガスをふんだんに焚いて温かい食事を摂ったが、私は暖まらずかなり寒く感じた。18時過ぎにはシュラフにくるまり就寝。

私は寒さでよく眠れなかった。ただ、今回はテントシューズを装着してしたため、靴を履く手間がはぶけ時間をかけずに用足しができた。



鳥倉林道ゲート出発



鳥倉登山口



三伏峠までの道標



2名だと快適すぎる室内



三伏峠小屋とテン場

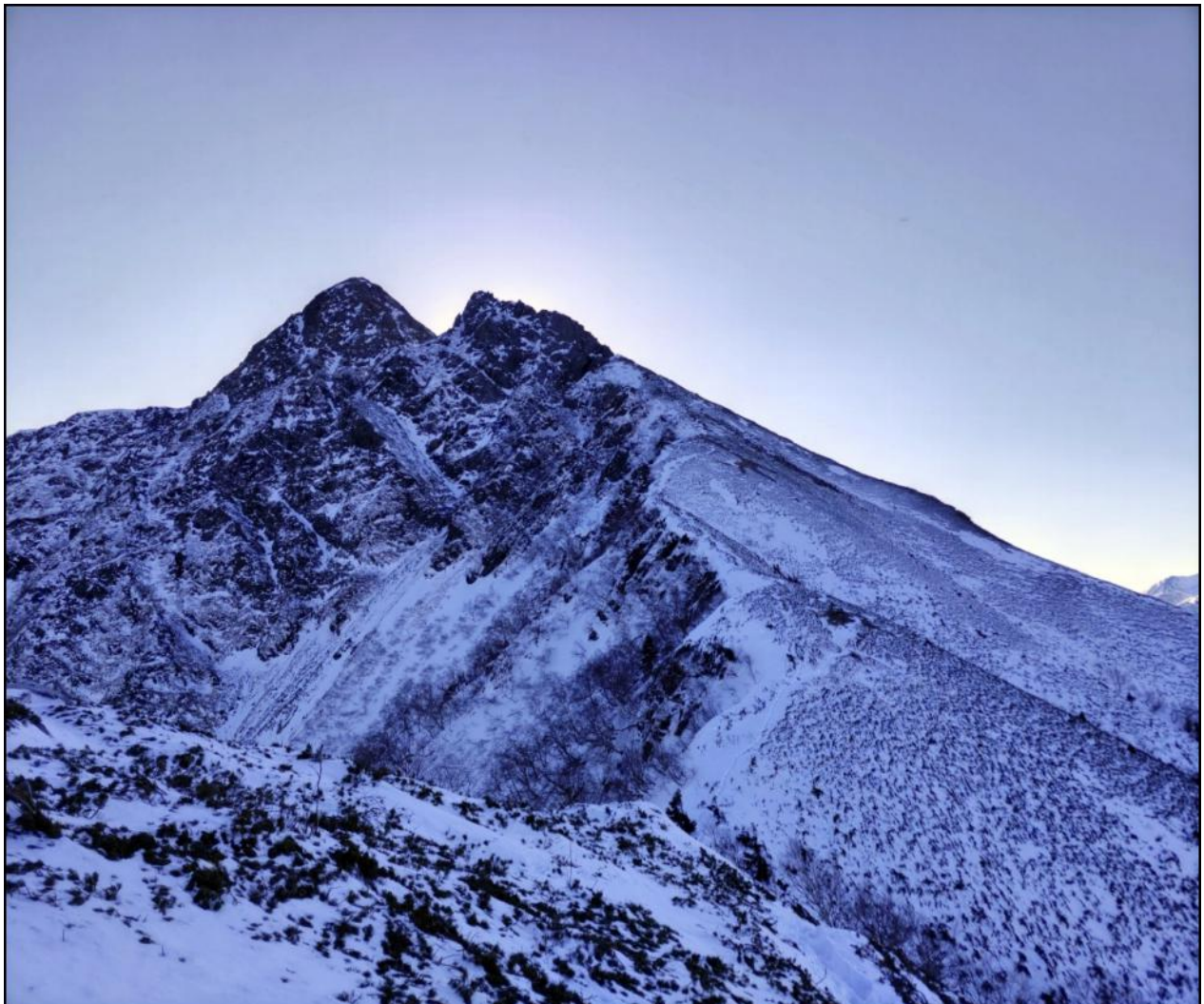
◆30日（入山2日目） 天候 快晴

未明2時に起床。私は普段よりも多めに朝食を摂る。昨日塩見岳に登頂したパーティーのメンバーのうち疲労で動けなくなった人がいたそう。

4時前に出発。非常に寒い。風は時折吹くものの静かでトレースの跡をゆっくりと進む。すぐに樹林帯を抜け三伏山の頂上にする。その後も明瞭なトレースが続いており、踏み抜きも無い。残雪期のような快適な登山道だ。



朝4時に出発 トレースは明瞭だ



塩見小屋より頂上を望む

私はアイゼン、土橋さんはワカンを装着。つぼ足でも問題はなかったと思う。私は身体が温まらず多少疲労を感じていたが、土橋さんは元気で概ね計画通りに本谷山を越え、朝の8時頃には塩見小屋に到着した。

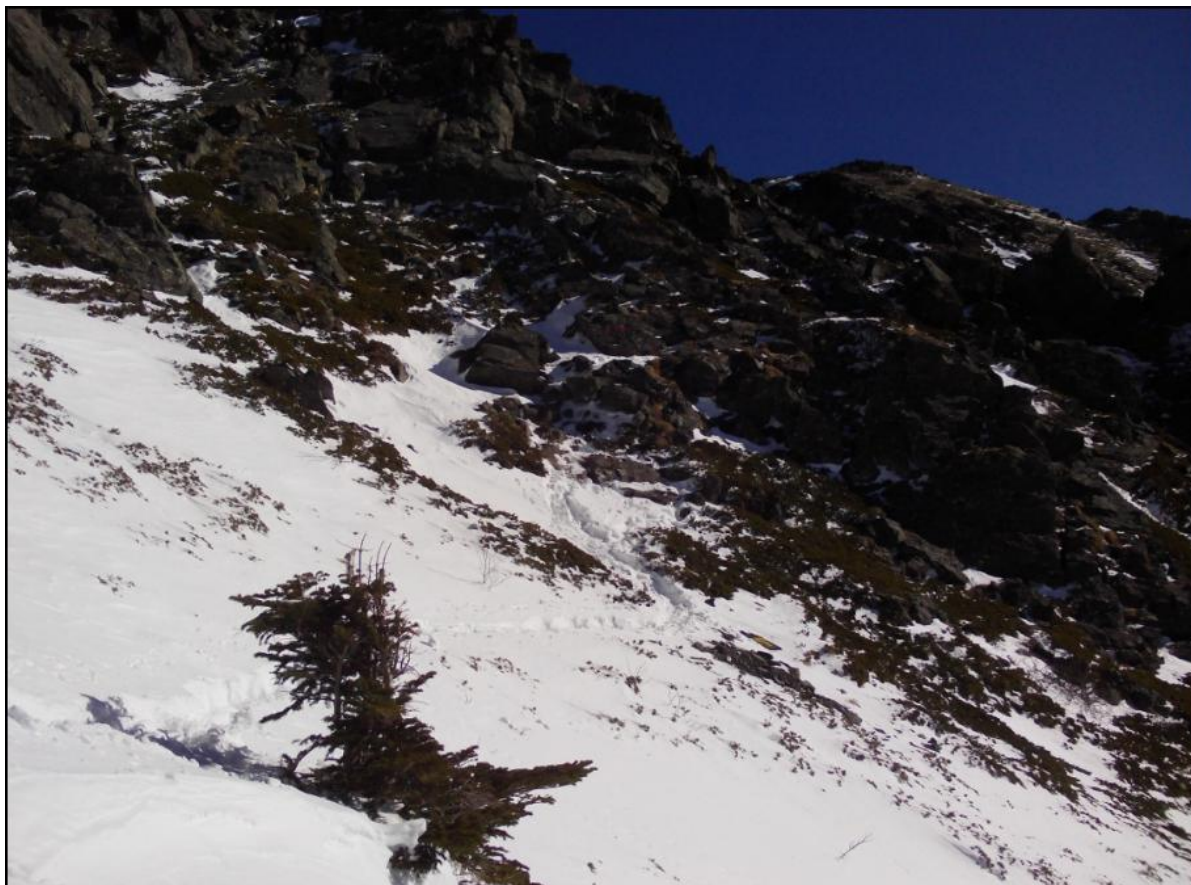
雪で塩見小屋のドアが開かず屋外で登攀具を装着。塩見小屋の温度計は -17°C を指していた。



天狗岩直下の核心部分



核心部分のトラバースだが難しくない



塩見岳直下の岩場 ペンキマークに沿って進む



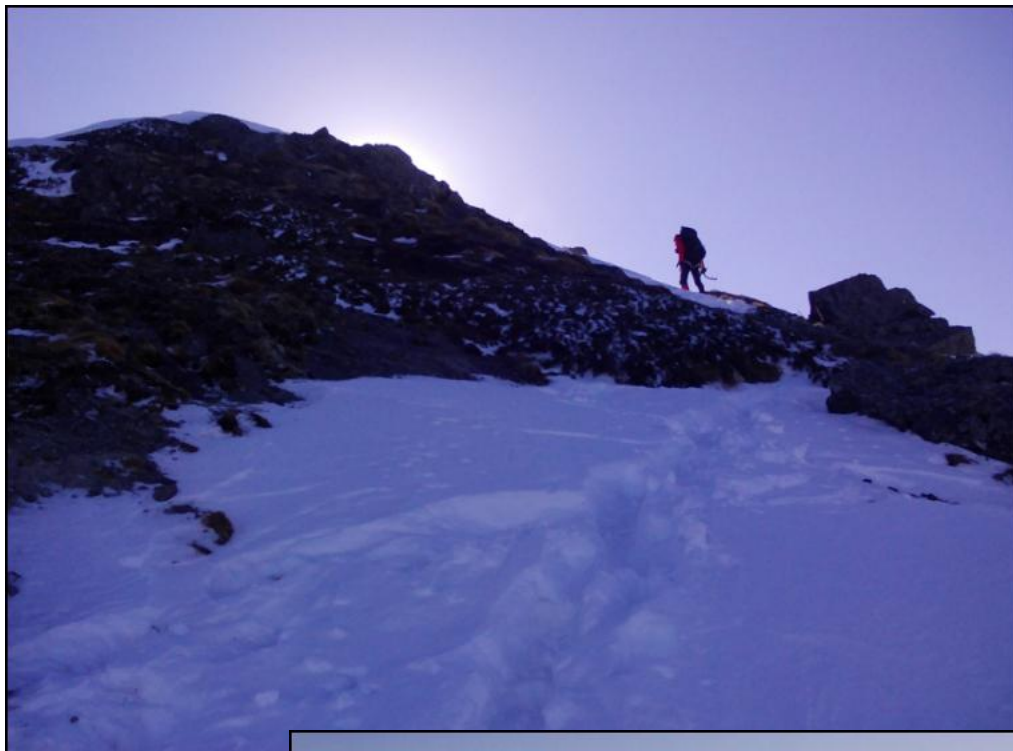
こちらも見た目ほど難しくない

核心部ともいえる天狗岩の岩稜帯の登りは我々にとっては難しいものではなく、比較的簡単に西峰に取り付いた。

西峰は鎖が出ており概ねペンキマークに沿って登高し夏道のそれと変わらない感じだった。9時45分に塩見岳西峰山頂(3,047m)に到着。

昨年に引き続き冬の3千メートル峰に登頂できた。写真を撮り東峰(3,052m)に向かう。雲の上に浮かぶ富士山がとても印象的だった。天気予報では強風が吹くはずだったが、風も穏やかで文句なしのコンディションだったと思う。

しばらく山頂で過ごした後、10時半前に下山開始。難しくはないが転倒すればただではすまない岩稜帯のため慎重に下る。



西峰直下を行く
山頂は目の前だ



塩見岳西峰の登頂



続いて東峰に向かう



塩見岳最高点東峰に登頂



富士山望む

11時半には暫定的な安全地帯である塩見小屋に到着した。日差しの温もりがありここで大休止を行った。

12時を過ぎ塩見小屋を出発したが、私(中山)のペースが上がらず土橋さんに荷物を持ってもらった。十分にボッカトレーニングを行ったはずだが、何故か今回はきつかった。(昨年の北岳の方が、難易度が高くコンディションも悪かったが、北岳よりきつuitと感じた。)

何とか日暮れまでにテン場に到着し、土橋さんは元気だが私は疲労困憊だった。夕食を済ませ登頂した安堵感に浸りながらガスをふんだんに炊き、夕食を食べ、シュラフに包まった。2日目の夜は幾分温かく感じた。



雪を掘りおこし小屋をあける土橋さん



帰路の三伏山

◆31日(3日目) 天候 快晴

土橋さんの煮炊きの臭いで目が覚める。土橋さんは単独で烏帽子岳に向かうが、中山は疲労があったためテントで留守番。土橋さんの帰還後、テントを撤収。9時過ぎに出発。

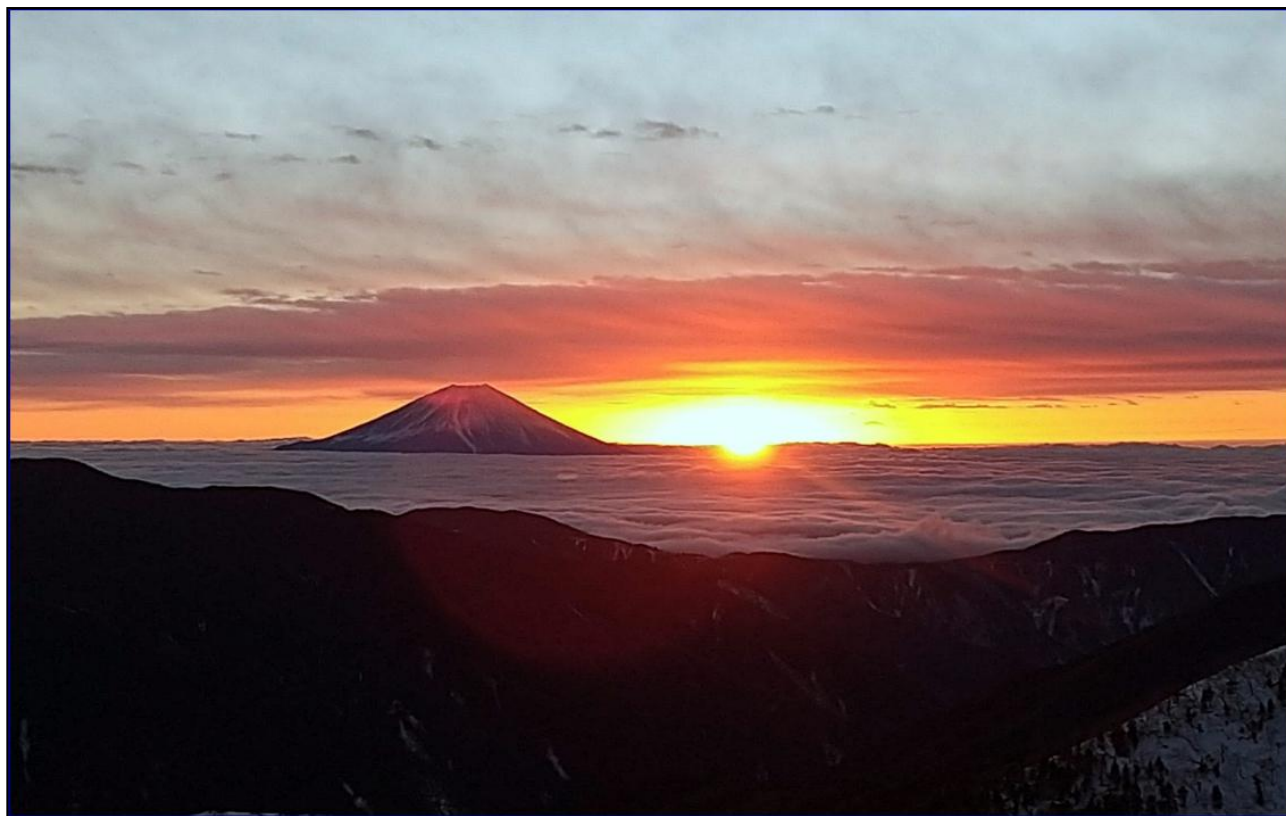
下山はそこまできつくなく登山口までは快適な下りだ。10時半過ぎには登山口に到着。大休止を行う。

後は長い林道歩きだ。去年もそうだが冬靴を履いて下りの長い林道歩きは足に堪える。2時間半以上かけてようやく林道ゲートにたどり着いた。

下山後は、飯田市内にある天空の城という温泉で汗を流した。大晦日で他の温泉はほとんど休館しており混雑していた。入浴後はファミレスで食事を摂り、飯田ICより一路北九州へ。翌元旦の未明に帰宅した。

3日とも良い天候に恵まれ去年に続いて厳冬期の3,000m級に登頂できた。年齢のためか疲労が強かった。

来年は再度トレーニングを見直した槍ヶ岳を目指したい。



2022年最後の日の出（土橋さん撮影）

写真撮影：土橋 誠・中山 正浩
報告者：中山 正浩